

## 趣意書

一般社団法人京都乳癌研究ネットワーク（Kyoto Breast Cancer Research Network:KBCRN）は、乳癌の予防、診断及び治療に関わる研究の推進、医療従事者の育成、乳癌の診断・治療に関する諸問題の検討と解決に向けての提言などを通して、乳癌の医療の進歩・普及へ貢献し、学術文化の発展、がん予防の推進及び健康の増進に寄与することを目的としています。

上記の目的を達するために次の事業を行っております。

- 1.乳癌に対するより有効な診断・治療法確立のための多施設共同研究
- 2.乳癌診療に関わる国内外の医療従事者及び医療機関の相互の協力、連携、交流とそのためのネットワーク構築
- 3.乳癌の予防、診断及び治療に関する知識の市民への普及と啓発
- 4.乳癌の予防、診断及び治療に携わる人材の育成のための研修会、講演会等の開催
- 5.乳癌の予防、診断及び治療に関する論文、書籍等の発行
- 6.乳癌患者とその家族に対する相談及び支援
- 7.がん予防の推進及び健康の増進に関する事業
- 8.その他前条の目的を達成するために必要な事業

乳癌治療成績の向上と QOL の向上は、私たちが目指す目標であり、会員のコンセンサスです。乳癌に罹患される患者数は依然として増加し続けており、社会的にも大きな問題になっております。乳癌の発症を抑え、早期に発見し、適格で最適な治療を行うことによって、生存成績を上げ、同時に QOL を維持し、治療に伴う苦痛を最小化することを大きな目的としています。

その目的の下、乳癌治療（特に薬物療法）の副作用と支持療法についても KBCRN では重点的に取り組んでおります。中でも治療効果が期待できるにもかかわらず QOL を損なうような薬剤の副作用は深刻ですが、副作用予防の研究開発については臨床試験や検証研究を行うに足る十分な支援が得られにくいことが課題です。KBCRN では世界の一人でも多くの抗がん剤を受ける患者さんがしびれのない日常をすごせるようにすることを目標に予防方法を開発し、抗がん剤投与中に手を圧迫することによって末梢神経障害が予防できることを報告しました。さらに、圧迫療法のために患者さんにやさしい素材を用いた弾性圧迫グローブ・ストッキングを新規開発・実装し、「化学療法誘発性末梢神経障害の多施設共同観察研究」（URL: [https://rctportal.niph.go.jp/detail/um?trial\\_id=UMIN000043729](https://rctportal.niph.go.jp/detail/um?trial_id=UMIN000043729)）を開始することになりました。この研究を基盤として研究を進め、ガイドラインや学会への提言、保険適用を目指したいと考えております。化学療法誘発性末梢神経障害は乳がんだけでなく他のがんでも問題となっており、この研究を進めることで年間何万もの患者さんに貢献できる可能性があります。

このような先進的な活動に対し、当法人といたしまして最大の努力をしておりますが、前述のように財政基盤が十分と言えるものではなく、当法人の活動趣旨にご賛同いただける方々からの、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2021年7月

一般社団法人京都乳癌研究ネットワーク（KBCRN）  
代表 戸井 雅和